

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】

都道府県名	静岡県
-------	-----

・学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	静岡市立城山中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	4		10	19
生徒数	104	108	145		357	

・研究の概要

1. 研究主題

「学びのおもしろさを実感できる授業」
--------------------

2. 内容与方法

(1)実施学年・教科

<p>1、3年・数学；少人数（生徒の習熟度の差が生じやすい教科であるため）          全学年・英語；少人数（生徒の習熟度の差が生じやすい教科であるため）          2年生・理科；少人数（実験・観察等を行うのに適しているため）          2年生・選択；選択1（6教科9コース）選択2（6教科8コース）          3年生・選択；選択3（5教科6コース）選択4（5教科6コース）          選択5（6教科7コース）選択6（6教科8コース） 44コース          全学年全教科；（一人一人の実態に応じたきめ細かな指導の充実を図るため）          それぞれの実施学年については、研究の中で、各教科の特性を踏まえて、最も効果的な設定をしていく。</p>
--

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 「学びのおもしろさを実感できる授業」          仮説          「自分なりの向上を感じる」、「互いに認め、認められる」ことで学びのおもしろさが実感できる授業を実践していけば、「確かな学力」が向上していくであろう。          研究内容・方法          (1)必修教科における指導体制及び指導方法の工夫改善          (2)TT及び少人数指導を核に、習熟度別の学習集団等の編成も含めた指導体制、指導方法について工夫改善          (3)選択教科では多様なコースを開設し、生徒の興味・関心や習熟度に応じた指導方法の工夫改善</p>
--------	---

平成15年度	<p>テーマ「学びのおもしろさを実感できる授業」          仮説          「自分なりの向上を感じる」、「互いに認め、認められる」ことで学びのおもしろさが実感できる授業を実践していけば、「確かな学力」が向上していくであろう。          研究内容・方法          (1)必修教科における指導体制及び指導方法の工夫改善          (2)TT及び少人数指導を核に、習熟度別の学習集団等の編成も含めた指導体制、指導方法について工夫改善、教材の開発          (3)選択教科では多様なコースを開設し、生徒の興味・関心や習熟度に応じたきめ細かな指導方法の工夫改善          (4)絶対評価を生かした学習及び指導方法の工夫改善          (5)習熟度別学習集団による学習の効果やよさを明らかにするとともに、生活集団としての学級の教育的機能を保持するための方策についての究明</p>
--------	---

平成 16 年度	<p>テーマ「学びのおもしろさを実感できる授業」</p> <p>仮説 「自分なりの向上を感じる」、「互いに認め、認められる」ことで学びのおもしろさを実感できる授業を実践していけば、「確かな学力」が向上していくであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>(1)必修教科における指導体制及び指導方法の工夫改善</p> <p>(2)TT及び少人数指導を核に、習熟度別の学習集団等の編成も含めた指導体制、指導方法について工夫改善、教材の開発</p> <p>(3)選択教科では多様なコースを開設し、生徒の興味・関心や習熟度に応じたきめ細やかな指導方法の工夫改善</p> <p>(4)絶対評価を生かした学習及び指導方法の工夫改善</p> <p>(5)習熟度別学習集団による学習の効果やよさを明らかにするとともに、生活集団としての学級の教育的機能を保持するための方策についての究明</p>
----------------	---

### (3) 研究推進体制

研究体制については、研修部を中心とした、全職員の研修体制で進める。ただし、TT授業や少人数指導の実施学年及び実施教科については、本校の指導体制や教育課程の編成との関係から、教務主任を中心とした特別チームを研修部内に設け、それを研究の推進母体とする。

## ・平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1. 研究の成果

- ・数学、英語、理科の少人数指導では、生徒は「質問しやすい」と答えている。特に数学の授業では「分からないところがあるとすぐ聞けるので良い」と答えている。3年生においては90%の生徒が「良い」と答え、少人数指導の良さを感じている。
- ・少人数指導だけでなく、全教科においても一人一人のつまずきに対応するきめ細かな指導や支援に心がけることによって、生徒が分かる喜びを感じることができた。
- ・生徒の実態を捉え、教材の本質、生徒に付けたい力を授業者が明確にすることにより、生徒が課題意識をもち授業に臨み、学ぶ意欲が高まり「自分なりの向上を感じ」、学びのおもしろさを実感している姿が見られた。
- ・「互いに認め、認められる」場では、自分と同じ考えや自分と違う考えを聞き、一人一人が自分の考えを一層明らかにできたり、新しい見方や考え方を身に付けたりすることができた。
- ・学級文庫を各学級に設置し、朝読書を毎日15分間行うことによって読書の習慣が付いてきた。

### 2. 今後の課題

- ・子どもの学びを支えていく「指導と評価の一体化」を今後も研究していきたい。
- ・少人数指導における教材開発、指導方法の工夫をさらに進めていきたい。
- ・よりよい学習集団が授業の質を向上させる。この点にも「学びのおもしろさ」に迫る要因がある。少人数、選択、総合などの集団の変化から学級集団の機能が低下しないよう工夫したい。

## ・学力把握のための学校の取組について

- ・校内研修会、公開授業等、授業を通して子どもが学びのおもしろさを実感している姿を話し合う。
- ・定期的な学力調査を実施する。(年1回) 学習アンケート(年2回)

## ・フロンティアスクールとしての成果の普及について

- ・パンフレット作成、3月配付予定
- ・自主研究発表会の開催(平成16年6月30日/予定)
- ・URL <http://www.shizuoka-szo.ed.jp/shiroyama-j/>
- ・E-mail [shiroyama-j-100@mb.shizuoka-szo.ed.jp](mailto:shiroyama-j-100@mb.shizuoka-szo.ed.jp)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 10～12学級

【指導体制】 少人数指導 TTによる指導 その他

【研究教科】 全教科(国、社、数、理、外、音、美、技家、保体) その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無